

維持修繕工事の円滑な 調達に向けて

総合技術政策研究センター

建設システム課

主任研究官 駒田 達広

部外研究員 岩塚 浩二

課長 金銅 将史

(キーワード) 維持修繕工事、入札不調・不落、工事価格、積算、契約方法



1. 研究の目的

高度経済成長期に集中投資した社会資本の高齢化の進行に備え、今後は、つくったものを長持ちさせて大事に使う「ストック型社会」への転換を推進する必要がある。このため、既存施設を適切に維持管理することが重要であるが、近年、国土交通省の維持修繕工事において、入札時に応札者がいない入札不調や応札価格が予定価格を上回る不落札といった入札不成立が数多く発生している。

本稿では、河川及び道路施設の維持修繕工事の調達に関して発生している問題について調査し、その結果判明した課題を報告する。

2. 受注業者へのアンケート調査

国土交通省が発注した河川および道路施設の維持修繕工事を受注した事業者を対象に、アンケート調査を実施した。平成21年度に東北地区（6県）で発注された工事を対象に実施し、維持工事118件のうち回答101件（回答率86%）、修繕工事47件のうち回答31件（回答率66%）を得た。

アンケートの結果、維持工事の約6割、修繕工事の約9割で、何らかの問題があるとの回答があった。工事価格・単価が安いとの指摘が多く、次いで工事地点が分散して効率が悪いこと、拘束時間・待機時間の効率が悪いことが挙げられた。一方で、工期の短さ、発注時期の悪さについての指摘は少なく、工事価格及び施工効率の悪さが維持修繕工事の主要な課題であることが判明した。

契約方法の改善に関しては、「問題を感じない」とする回答が約3割あったものの、維持工事ではほぼ同数の約3割の回答で、工事内容（工種）を拡大し1件工事の規模を拡大（工事対象の区域・延長は同じ）することを望む意見があった。一方、1件工

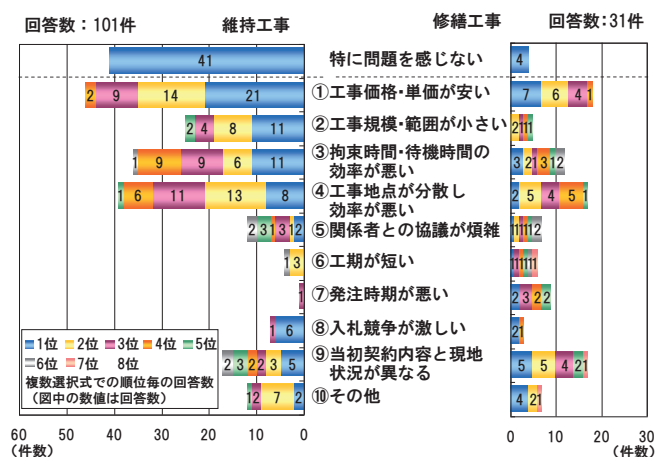


図1 維持修繕工事の問題

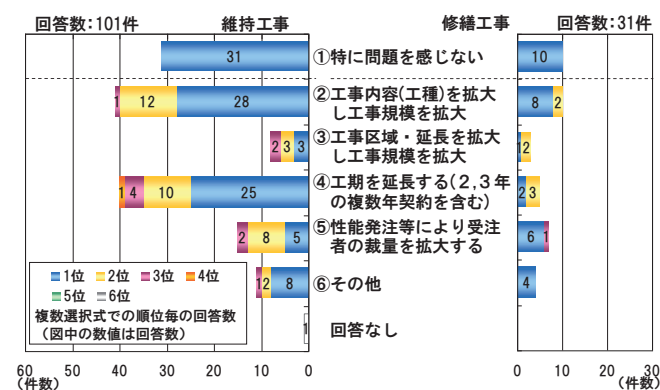


図2 契約範囲改善に関する意見

事の規模を拡大するための工事区域・延長の拡大、性能発注等により受注業者の裁量を拡大することを希望する意見は少なかった。

3. 今後にむけて

維持修繕工事の工事価格について、小規模工事、作業制約のある場合でも新設工事とほぼ同等となっており、積算において現場の実態を適切に反映できていない場合があると考えられる。また、契約の単位として、規模拡大および複数年契約についてのニーズが大きいことがわかった。今後は、その実態や理由を把握し、改善策の一部試行等を導入しつつ、制度の見直しにつなげていきたい。